

Hyogo大好き!

5号
2020年
冬号

兵庫県議会議員

相崎 佐和子

県政活動ニュース



topics

- ▶ 先生同士のイジメ、二度と起こらないために ~県政トピック~
- ▶ 阪神県民局(県庁の出張所)が伊丹に! ~県政トピック~
- ▶ 兵庫県は森林が多い! ~データでみる兵庫県~
- ▶ 中学校の部活動指導をサポート ~委員会報告~
- 「第26回 サワコの茶話会」やります!

県議になって、変わった事 変わらない事

3期12年を過ごした伊丹市議会から兵庫県議会にステージを移して約8ヶ月(当選からは約10ヶ月)。県政の場から私たちの暮らしの課題を解決したいと奔走する日々です。

さて、市民の方々からよく「市から県に移ってどう?」とご質問をいただきます。変わった事と変わらない事があると実感しています。

■“課題解決の方法”が変わった

一番変わったのは“課題解決の方法”です。

市議会議員の時は、市民の皆さんと話をさせてもらい、私たちの生活にダイレクトに関わる課題について自分自身が直接、改善の声を上げていました。

県議会議員になって、もちろん市民の皆さんと話させていただくのですが、より広域的・先進的な課題について国や市と調整して改善を進めるカタチに変わりました。実際には、国会議員・市議会議員との調整などが増加しました。

つまり、取り組む課題とその解決方法が変わったわけです。役割が変化したのだと実感するところです。

■“活動範囲”が変わった

あと活動範囲が広がりました。兵庫県全域が所管範囲になり、北は美方郡から南は淡路島まで奔走しています。兵庫県は広いですね。地域によって抱える課題が大いに異なると改めて実感しています。

地元である伊丹市はもちろん兵庫県全体の課題解決を

進める。ミクロとマクロの双方の視点を持って両方に取り組む責任と役割を再認識しています。

■“活動のベース”は変わらない

とはいえ、活動のベースが伊丹市であることに変わりはありません。「毎日県庁に行っているの?」とご質問いただきますが、本会議などの公務以外は、地元の伊丹で相変わらず走り回っていることが多いです。

県庁に近い神戸市選出の議員などは、事務作業などでも県庁を活用していると聞きますが、県庁から遠い地域選出の議員は頻繁な登庁がかなわず、普段は地元で活動しているそう。私も基本的には地元の伊丹市で活動を展開しています。

■“現場の声を聞く”ことは変わらない

私が相変わらず地元の伊丹市をベースにしているのは、大きな理由があります。生活からの声、現場からの声を聞かせていただくことが全ての基本だと思っているからです。その貴重なお声を政治の場に届け、私たちが抱える課題の解決を進め、よりよい社会をつくりたいのです。

相崎佐和子は、皆さんの声を聞かせていただき、一緒に課題解決に取り組んで参ります。

そして、自分らしく生きることができる社会、頑張る人が報われる社会をつくっていきます。